

金融市場NOW

2100年の世界人口 112億人へ

インドの人口、中国を抜いて1位に

- 『世界人口展望2017年版』において2100年に世界人口が112億人に達するとの予測が発表された。
- 2024年頃までにインドの総人口が中国を抜き、国別で1位となると予測されている。
- 世界全体の平均寿命も延びるため、社会保障制度の充実に取り組むことが共通の課題になる見込み。

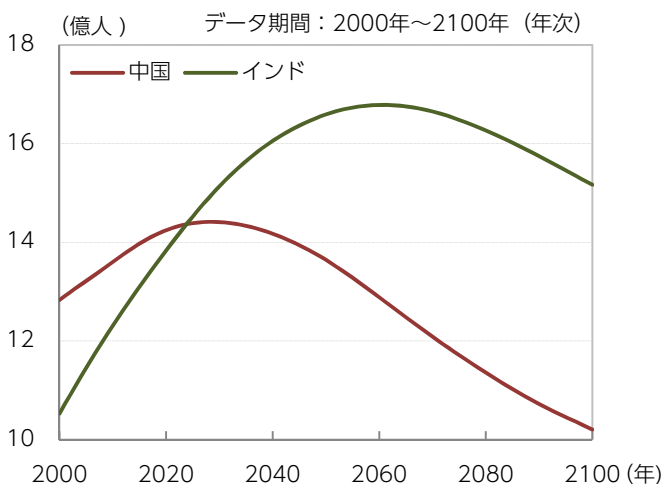
国連経済社会局は6月21日に、世界人口が現在の76億人から2050年に98億人に増加し、2100年には112億人に達すると予測する報告書『世界人口展望2017年版』を発表しました。

2024年頃までにインドが中国を抜き（図表1）国別で1位となり、同7位のナイジェリアが2050年までに3位に浮上するとしています。一方、日本は現在の11位（1億2,700万人）から次第に順位を下げ、2050年には1億900万人で17位、2100年には8,500万人で29位にまで順位を下げるとしています。

予測によると、2100年のインドの人口は15億1,700万人、中国は10億2,100万人で、両国だけで世界人口の22.7%を占めることとなります。上位10カ国のうち5カ国をアフリカ諸国が占めています。後発開発途上国47カ国の総人口は現在の約10億人から2050年には19億人に増えると推定されています。1人の女性が生涯に産む子供の数（合計特殊出生率）が4.3と非常に高いということが背景にあるようです。経済社会局は、最貧国の集中的な人口増加が貧困や飢餓の撲滅などを掲げた国連の『持続可能な開発目標（SDGs）』履行に向けた課題になると指摘しています。

世界全体の平均寿命は2015～2020年の71.9歳から、2095～2100年には82.6歳まで延びる見通しです。日本は84歳から93.9歳まで延びる見通しです（図表2）。高齢化も進展し、60歳以上の人口は世界全体で2050年までに現在の2倍以上、2100年までに3倍以上になるとしています。報告書では、今後、各国の社会でより多くの高齢者を支えていかなければならないため、医療福祉や年金などの社会保障制度の充実に取り組むことが共通の課題だとしています。

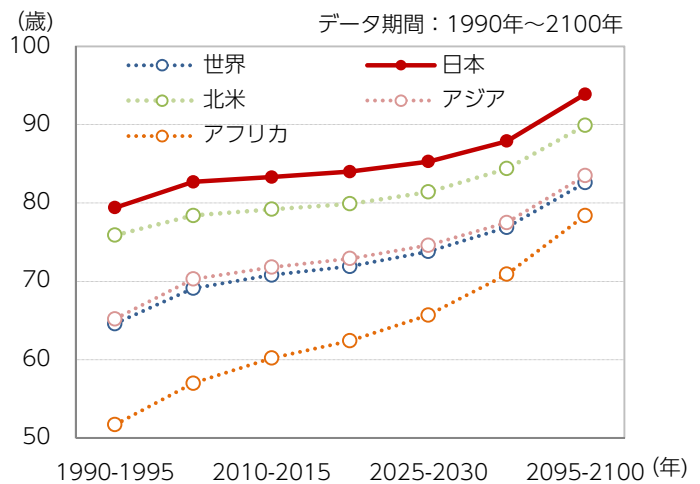
図表1：2024年頃までにインドの人口が中国を抜く



※中国とインドの人口予測の推移

出所：図表1、図表2は国連経済社会局「世界人口展望2017年版」を基にニッセイアセットマネジメントが作成

図表2：日本の平均寿命は93.9歳まで延びる見込み



※国・地域別の平均寿命の予想推移